

平成19年度大学院講義 国際基盤生命学特論2 グローバルCOE「生体シグナルを基盤とする統合生命学」

以下のように集中講義形式で開講します。コース1と2の中で、一つを選択して受講してください。コース3は現在交渉中で、出席は必須ではありません。

コース1 12月10日（月）理学部2号館講堂4F 14：00より （担当：福田裕穂）
“New Insight into Mechanisms Governing Root Organization in Plants”
Prof. Yrj Helariutta (University of Helsinki)
Integrating hormonal and genetic control during vascular morphogenesis in root
Prof. Ben Scheres (Utrecht University)
Gradients in root development

コース2 12月10日（月）分子細胞生物学研究所 総合研究棟2階会議室14：00より
（担当：渡邊嘉典）
“Chromosome Dynamics”
Dr. Hironori Funabiki (The Rockefeller University)
Mechanism of Mitotic Aurora B Activation Stimulated by Chromatin and Microtubules
Prof. Arshad Desai (University of California)
Kinetochores Specification and Function
Prof. Andrew Murray (Harvard University)
Looking after your chromosomes: an intrinsic bias to biorient in mitosis and meiosis

コース3（予定） 2008年3月4日（火）理学部2号館講堂4F（担当：武田洋幸）
“Workshop for Scientific Writing” by Prof. George Gopen (Duke University)
実施するかどうかも含めて詳細は後日掲示します。

- ・履修届は各研究科を通して行ってください。理学系：国際基盤生命学特論2（生化、生科）、医学系は対応する講義はありませんが聴講できます。
- ・レポートについて：コース1，2について、一人の講演内容をA4レポート用紙1枚程度に要約する（英語でも日本語でも可）。講義終了後2週間以内に理学系研究科生物科学専攻事務室（理学部2号館1F154号室、担当山崎さゆり、内線24018）に提出。または、メールで以下の宛先へ。メールの場合は、題名「国際基盤生命学特論2」とする。受領をかならず返信メールでお知らせします。返信がなければ再度確認のこと。
柳澤 春明<gcoe_lec@biol.s.u-tokyo.ac.jp> 生物科学専攻分子生理学研究室（内線24427）

問合せ先： 理学系研究科・生物科学専攻・武田（内線24431）